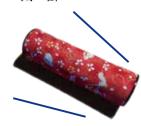
36. 少子化対策と不妊治療

進んでいる日本で出生率を上げるためには、 かもしれません。もちろん、結婚せずに子どもを持つ方も もを持つ〟という前提から、 夫婦となり子どもを持つという流れを辿る以上、 もっとも、 まさに日本人の出生率を増やすことです 出生率を上げるといっても、普通は結婚して 方法もあるでしょう。 **というのも一法ですし、海外から移民を** めにロボットやAIの力を借りて生 る問題を解決する方法としては、 考え直さなくてはならないの の課題と言えましょう や経済の縮小へと繋が ただ、 ″結婚して子ど もっとも有 晩婚化が

念せざるを得なかった方にとっては、まさに朗外だったため、経済的な負担が大きく治療を断

報と言えましょう。



とはいえ、不妊治療が保険適用となったこと自体は慶賀すべきことではありますが、そこに拘泥しすぎると、かえってな子どもが欲しいという思いが執念となり、ご夫婦の気持ちや行動がそこに縛られてしまうからです。「子宝」という言葉があるように子どもは宝ものです。であればこそ、ご夫婦の間で子どもに恵まれなくても、血縁関係を超えた、社会の中の子ども、を支えることもできるでしょう。一方で、子どものいない人生というのもあります。、幸せ、はまさにその人の心構え次第だからです。

があることなのではないでしょうか。(JMS主幹・野村元久)ことこそ出生率を上げていくことと同時に、考えていく必要を超えて社会が子どもを育てるという意識を持つこと。その子どもが生まれ、成長していく過程で、家族という枠組み

が保険適用となりました。

今年の4月より、

。今まで生殖補助医療は保険適用一般的な不妊治療・生殖補助医療

どもが持てるような社会制度が整備されればと思っていた

もが欲しくてもできない夫婦もおられます。その方々が子

おられるので一概には言えません。

一方で、

結婚して子ど